

新規就農者のタマネギ栽培の収量向上

対象者 甲賀市甲賀町 N氏

【普及活動のねらい】

N氏は大学卒業後、平成25年に農業法人に野菜部門の主担当として就職就農されました。令和2年4月に独立され、甲賀町隠岐地先にて就農されました。栽培品目は、露地野菜としてタマネギ、ジャガイモ、ニンジン、ユウガオ、レンコンと水稻を組み合わせた経営です。タマネギ以外の野菜については、販路が既にあり、次作以降についても現状程度の面積で作付けされる予定ですが、タマネギは加工用としてJAへの出荷に向けて今後、面積拡大を計画されています。

しかし、タマネギは令和2年産については圃場選定（排水対策等）や病害虫・雑草対策が不十分であったことに加え、梅雨期の長雨による腐敗も重なり、収量は就農計画の目標である10aあたり3t台に届きませんでした。近年、信楽町地先に就農された方で10aあたり4t台の事例もあることから、今後経営の柱になるタマネギ栽培について収量向上を図る支援を行いました。

【普及活動の内容】

圃場準備が間に合わず定植遅れによる収量減少を防ぐため、圃場選定と排水対策（排水路の確保・作業の早期実施等）について支援しました。

タマネギの主要な病害虫であるべと病・アザミウマ類について、発生してからの防除が困難なため、予防的防除や発生初期の防除が実施できるよう、また、雑草による生育抑制を発生させないために、除草剤の特性（雑草抑制剤と選択制薬剤の違い等）を理解し、除草剤の効果が十分発揮できる散布が実施できるように現地巡回を組み合わせ支援しました。

令和4年産タマネギの作付けについて、水稻受託作業とタマネギの管理作業など他品目との作業競合の改善のため早植え栽培の導入を促しました。



令和4年産タマネギの定植作業
（早植え栽培）

【普及活動の成果】

令和3年産は、現地巡回指導を定期的には実施しましたが、水稻受託作業との競合により防除作業が遅れたり、異常なほどの早い梅雨入りによるべと病の大発生により残念ながら収量が目標に届きませんでした。このため改めて令和4年産に向けては、タマネギの管理作業が遅れないよう水稻受託作業とのバランスを考慮して圃場準備や排水対策を早々に実施しました。また、タマネギの作付けを早めるため、すべて早植え栽培に変更・導入し他栽培品目との作業競合の改善を図りました。今後、適期除草剤の活用による雑草対策と体系防除によるべと病対策により収量向上に向けた支援をします。